

株式会社ポプラ社 編集長 山口竜也

読みたくなったら、いつでも読める、好きなだけ読める。いろんな種類の、たくさんの知識の本が置いてあって、どんな興味にも応えてくれる。それが学校図書館です。

学校図書館で本と出会い、本がもっともっと好きになる。わたしも、そうやって本が好きになり、大人になりました。そして、いつしか、こどもたちのために、もっと面白くてためになる本を作ろうと、編集者の仕事につきました。

図書館が、学校にある。学校で好きな本が読める。借りられる。こんな素敵な場所は、ほかにありません。学校図書館が、今よりも、もっともっと充実するように、精一杯、応援したいと思います。

読み聞かせボランティア

私が卒業した小学校には学校司書はいませんでした。田舎の小さな小学校でした。中学校にもやはり学校司書はいませんでした。けして小さな中学校ではなかったのですが。そんな時代でした。

今、小学校にも中学校にも学校司書がおられます。様々な本について、適切なアドバイスをいただきながら、本を選ぶことができます。なんて恵まれているのだろうと思います。

読み聞かせボランティア

我が子がまだ幼いころ…毎晩絵本を読んで寝かしつけていました。長男の時は本当に毎晩2, 3冊読みました。しかし次男の時は、忙しさにかまけて絵本から遠ざかってしまっていました。気付けば高校生になった彼ら…今でも長男は本好き。しかし次男は…(う〜ん残念)本を読むって本当に大切。今さらながらに痛感…。

子どものころに本を読むという習慣があればきっと大人になっても好きなはず。だから学校司書が、あの手この手で、子どもたちが本に興味を持つようにと工夫して、くり広げる様々な手法(?!)は、いつも感激しています。

これからも、子どもたちとすてきな本のかけ橋としてよろしくお願ひします!!

読み聞かせボランティア

ボランティアとして学年にあった本を教えていただいたり、おすすめの新しい本を紹介していただいたり、他の図書館より行事の為の本などを手配していただいたり、本当に学校司書はなくてはならない存在です。何よりも子ども達のために子どもの気持ちによりそい、本に興味を持って新しい世界の扉を開ける手助けをしてもらう…とても大切な仕事です！！

学校司書がいる図書館は本当に幸せです。本が生き生きしています。子どもたちの目がキラキラしています。死んだ場所にしないためにも学校司書の方が絶対に必要だと思います。

読み聞かせボランティア

ストーリーテリング及び絵本のボランティアを始めて十五年くらいになります。その間、東京子ども図書館で二年間研修を受けました。若い司書の方々といっしょに学びました。その中の何人かの方が次のように言いました。“岡山市は学校司書の制度が充実しているそうですね”と。

先日のお手紙で実情を知り驚いています。今、岡山県こども文庫連絡会では、松岡亨子先生の著書『子どもと本』岩波新書、『えほんのせかい こどものせかい』文春文庫の二冊を勉強しています。その中に児童図書館員の充実の大切さが書かれています。子供達の未来の為にもぜひ改善いただきたいものです。

読み聞かせボランティア

学校図書館の本で、自分で知る楽しさやゆっくり考える力。子ども達の豊かな心を育ててほしいと願います。